

# 経団連、一律賃上げ見送り

## 事業継続・雇用維持を優先

春季労使交渉

2022年の春季労使交渉（春闘）に臨む経団連の方針案が30日わかった。新型コロナウイルス禍による企業業績のばら

つきの拡大を踏まえ、一律の賃上げは見送る。収益が十分に回復していない企業は事業継続と雇用維持を最優先とする。岸

田文雄政権が求めた3%超の賃上げは好業績の企業を中心に対応する。春闘の指針となる経営労働政策特別委員会報告

の原案をまとめた。22年1月に公表する。自社の状況に応じて労使協議で賃金を決める「賃金決定の大原則」がより重要になっていると指摘する。首相が掲げる「新しい資本主義」にも言及し、高収益企業は「新しい資本主義の起動にふさわしい賃金引き上げが望まれる」と明記。付加価値の最大化にまず注力し、成長と分配の好循環に寄与していく方針とする。